



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.10
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

レスキュー薬の投与量



事例

【事例の詳細】

患者にオキシコドン徐放カプセル5mg 1回1カプセル1日2回7日分とオキノーム散5mg 1回1包疼痛時20回分が初めて処方された。通常、オキノーム散をレスキュー薬として使用する際の1回量は定時投与するオキシコドン塩酸塩経口製剤の1日量の1/8～1/4であるが、処方されたオキノーム散の1回量が、オキシコドン徐放カプセルの1日量の1/2であることに処方監査時に気付いた。レスキュー薬の用量について疑義照会を行った結果、オキノーム散2.5mgに変更になった。

【推定される要因】

処方医は、処方を入力する際、規格を確認しなかった可能性がある。

【薬局での取り組み】

調剤を適切に行うために、日頃から薬剤に関する知識を深めておく。初めて取り扱う薬剤を調剤する際は、添付文書やインタビューフォームを確認する。処方内容に疑義が生じた場合は処方医に確認する。



その他の 情報

オキノーム散2.5mg/5mg/10mg/20mgの添付文書 2023年2月改訂(第1版)(一部抜粋)

7.用法・用量に関連する注意

〈臨時追加投与(レスキュー薬の投与)として本剤を使用する場合〉

7.1 疼痛が増強した場合や鎮痛効果が得られている患者で突発性の疼痛が発現した場合は、直ちに本剤の臨時追加投与を行い鎮痛を図ること。本剤の1回量は定時投与中のオキシコドン塩酸塩経口製剤の1日量の1/8～1/4を経口投与すること。



事例の ポイント

- 本事例は、患者に初めてオピオイド鎮痛薬が処方された際に、薬剤師がレスキュー薬として処方されたオキノーム散の1回量の妥当性を検討し、疑義照会を行った事例である。
- 通常、レスキュー薬として処方されるオピオイド鎮痛薬の1回量は、定時投与中のオピオイド鎮痛薬の1日量を基準に決められる。レスキュー薬が処方された際は、定時投与量をもとにレスキュー薬の1回量が妥当であるか検討を行うことが重要である。
- 薬剤師は、添付文書やインタビューフォーム、厚生労働省が公開している「医療用麻薬適正使用ガイドンス^{*}」などを活用し、日頃からオピオイド鎮痛薬に関する知識を深めておく必要がある。

^{*}医療用麻薬適正使用ガイドンス～がん疼痛及び慢性疼痛治療における医療用麻薬の使用と管理のガイドンス～(平成29年発行版)
https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakubuturanyou/dl/iryu_tekisei_guide2017a.pdf



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281 (直通) FAX：03-5217-0253 (直通)
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。